

2021年度計画および今後の展望

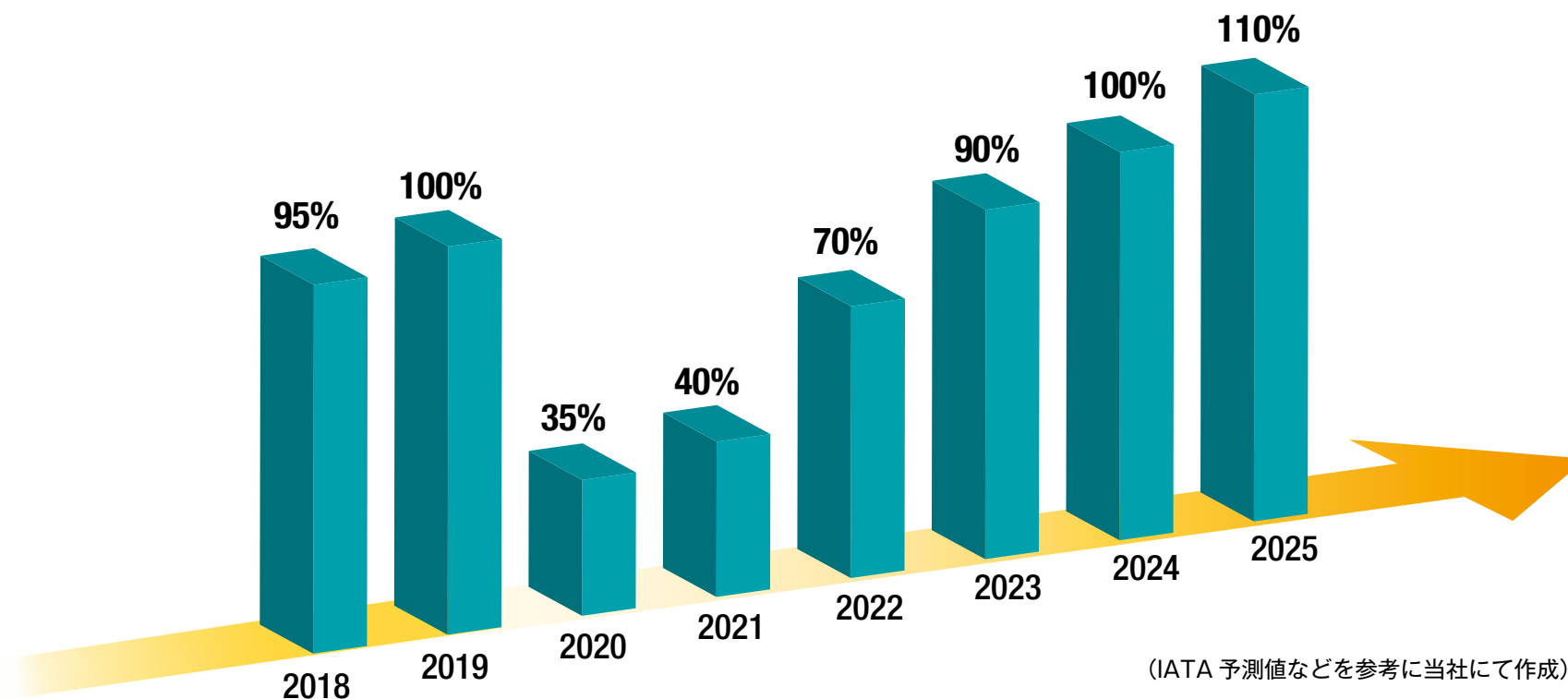
- 17 | 2021年度計画策定の前提
- 18 | 2021年度経営計画
- 19 | 業績見通しについて
- 20 | 収益改善の背景
- 21 | 中期経営指標
- 22 | 事業別見通し(航空機内装品 セグメント)
- 23 | 事業別見通し(航空機シート セグメント)
- 24 | 事業別見通し(航空機器製造 セグメント)
- 25 | 事業別見通し(航空機整備 セグメント)
- 26 | 取組中のプロジェクト-①
- 27 | 取組中のプロジェクト-②

SECTION

2

- IATA(国際航空輸送協会)の予測などをベースに航空旅客需要を予測
 - ◎ 2021年度は、2019年度の4割程度の需要。
 - ◎ コロナ禍以前の規模に需要が回復するのは2024年頃。
- 航空機メーカーの新造機生産は、2021年度は横ばい。2022年度以降、段階的な増産。
- エアライン向けは、スペア部品の需要から徐々に回復。
2021年度後半から客室内改修用内装品や改修用キットの需要が回復。

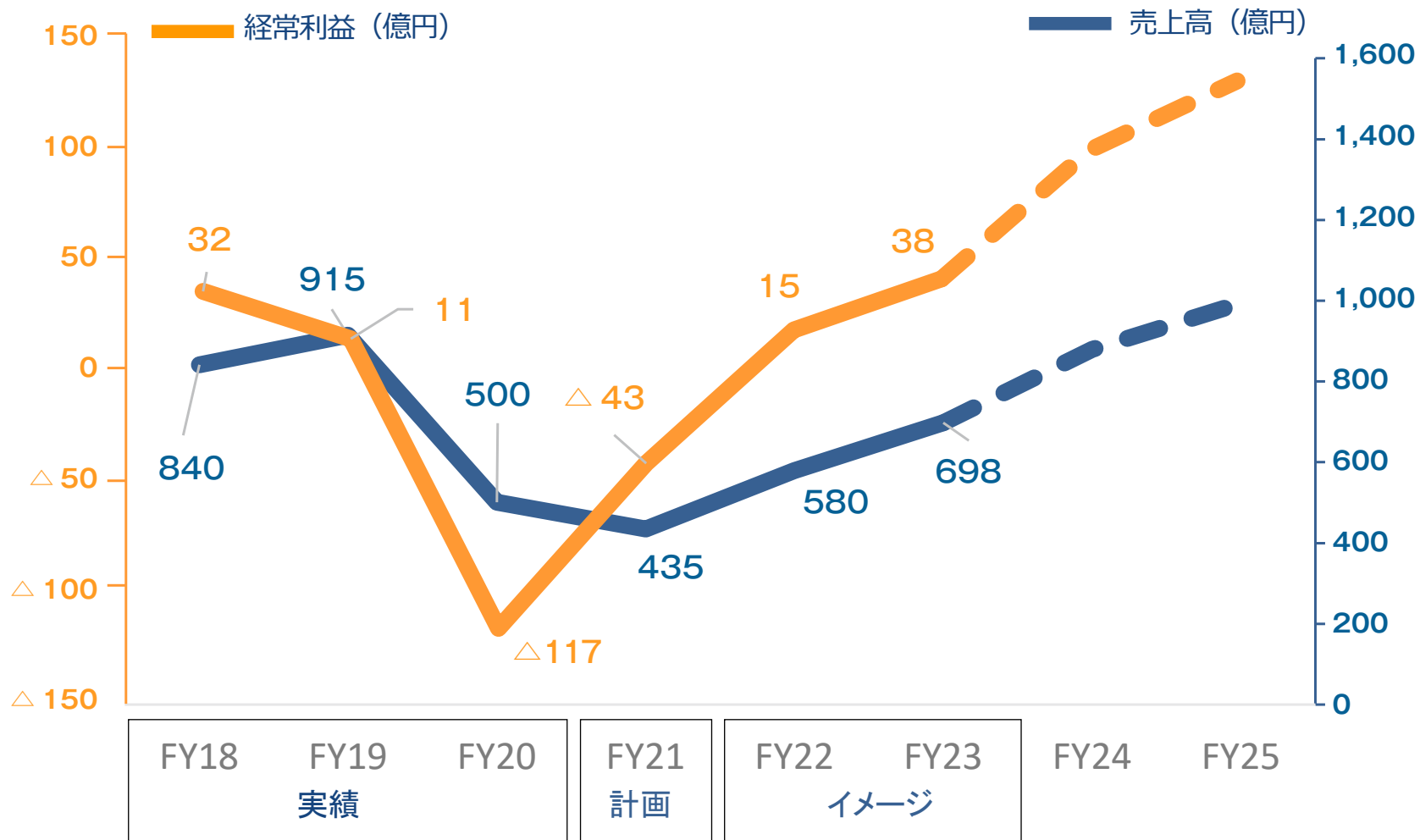
航空旅客需要の回復イメージ (2019年度を100%とする)



【単位:百万円】

	FY20 (実績)	FY21 (計画)	FY22 (イメージ)	FY23 (イメージ)
売上高	50,058	43,500	58,000	69,800
売上総利益	△ 4,100	3,470	—	—
販管費	6,801	7,450	—	—
営業利益	△ 10,902	△ 3,980	1,950	4,230
営業外損益	△ 853	△ 380	—	—
経常利益	△ 11,756	△ 4,360	1,580	3,840
特別損益	△ 4,980	△ 140	—	—
税金等調整前当期純利益	△ 16,737	△ 4,500	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 13,585	△ 3,120	1,180	2,780
売上為替レート (円/USドル)	106.64	103.00	103.00	103.00
連結総資産	101,236	94,100	93,400	98,200
営業キャッシュフロー	△ 11,615	3,600	5,500	4,300

業績見通しについて



中期経営方針

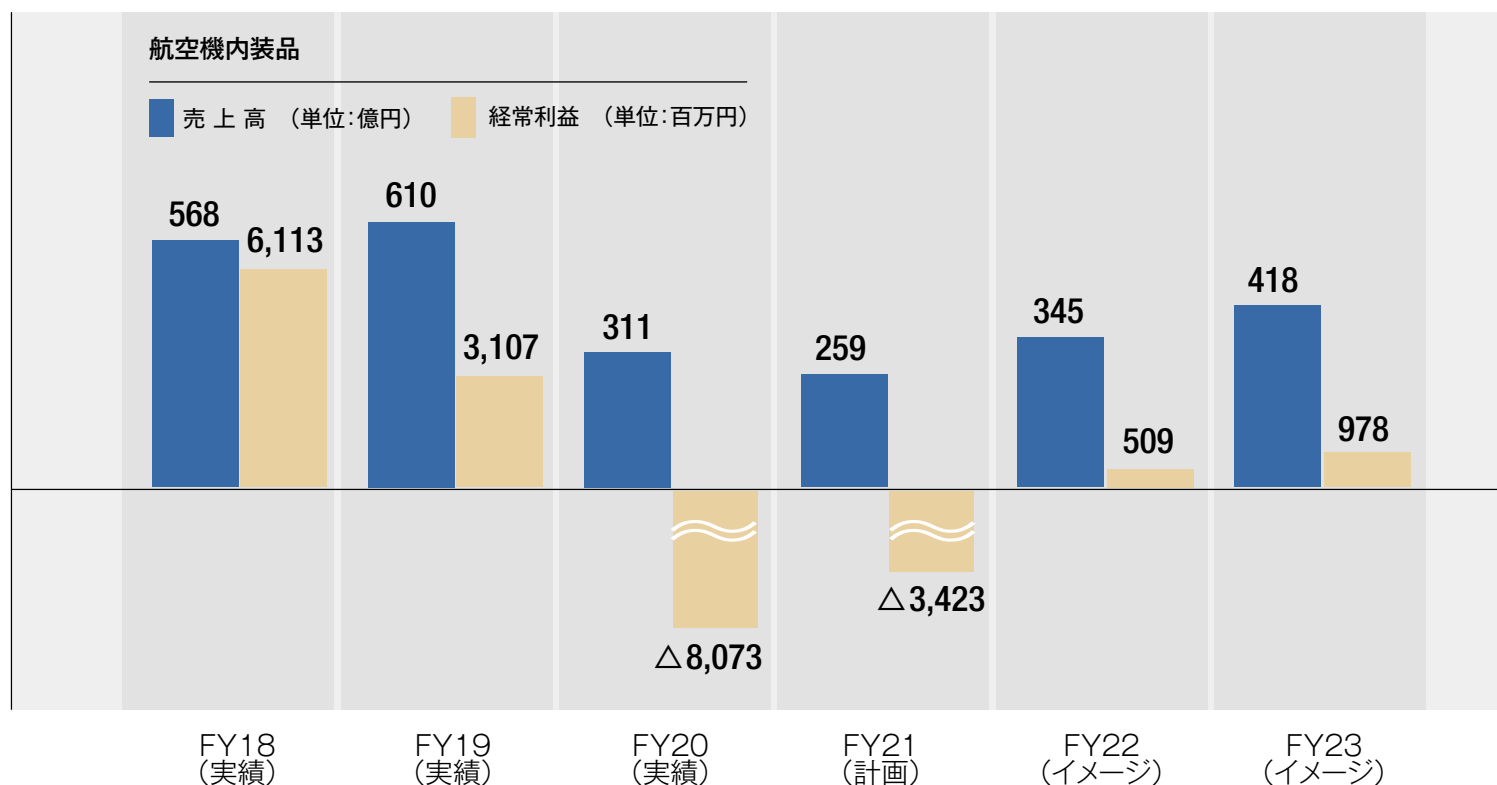
規模の適正化と更なる効率化によって、安定した収益を確保し、事業の多様化・進化を追求する。

- 規模適正化の効果:
 - 2020年度に実施した生産拠点統合、人員削減など規模適正化の効果が2021年度は年間を通じて現れる。(前年度比、約50億円の経費削減効果)
- シート事業の収益性改善:
 - 特注品シートの赤字工事は2020年度で概ね完了。
 - ビジネスクラス・シート「Venture」の拡販等により約15億円／年の収益改善を見込む。
- 航空需要回復の手応え:
 - スペア部品受注、客室改修用内装品などの引合が増加中。
 - 1月以降、100億円を超える内装品及びシートの受注実績。
- 応需能力の維持:
 - 100名超のスキルを有した社員がグループ外へ出向中。
 - 海外製造子会社を含め、需要回復時の設備／人員の復帰余力を維持。
- 業務プロセス改革・DX推進による効率化

- **収益性指標** : **連結経常利益率 7% 以上** → **目標 : 2024年度達成**
- **効率性指標** : **連結ROA 7%以上** → **目標 : 2024年度達成**
- **安全性指標** : **自己資本比率 30%以上** → **目標 : 2025年度達成**
- **配当方針** : **連結配当性向 20~30%** → **早期の復配を目指す**

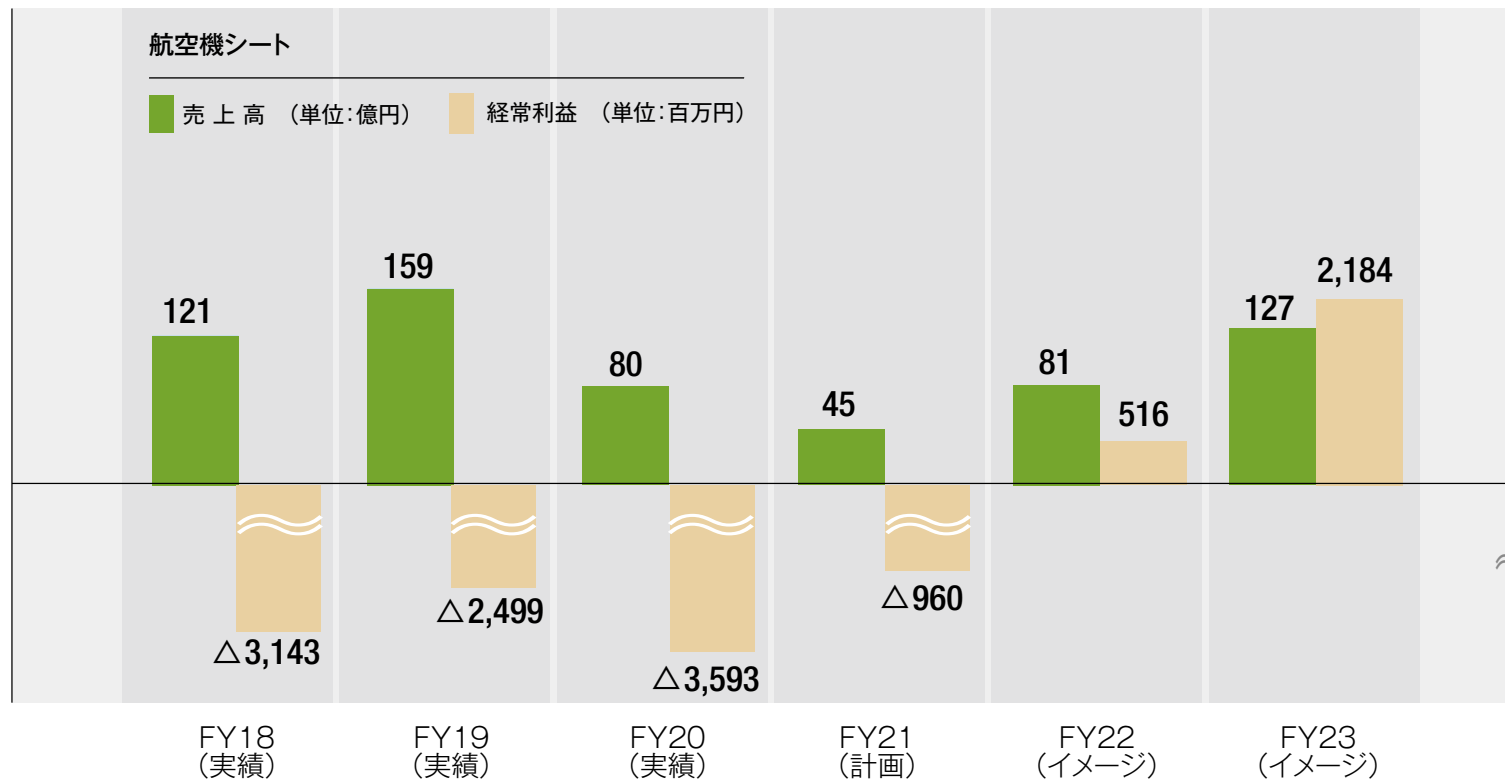
航空旅客需要の回復に合わせた、安定的な売上回復

- 航空機メーカーの新造機生産は、2021年は横ばい。2022年度以降、段階的な増産
- エアライン向けは、スペア部品の需要から徐々に回復。2021年度後半以降、客室内改修用の内装品や改修用キットの需要が回復。



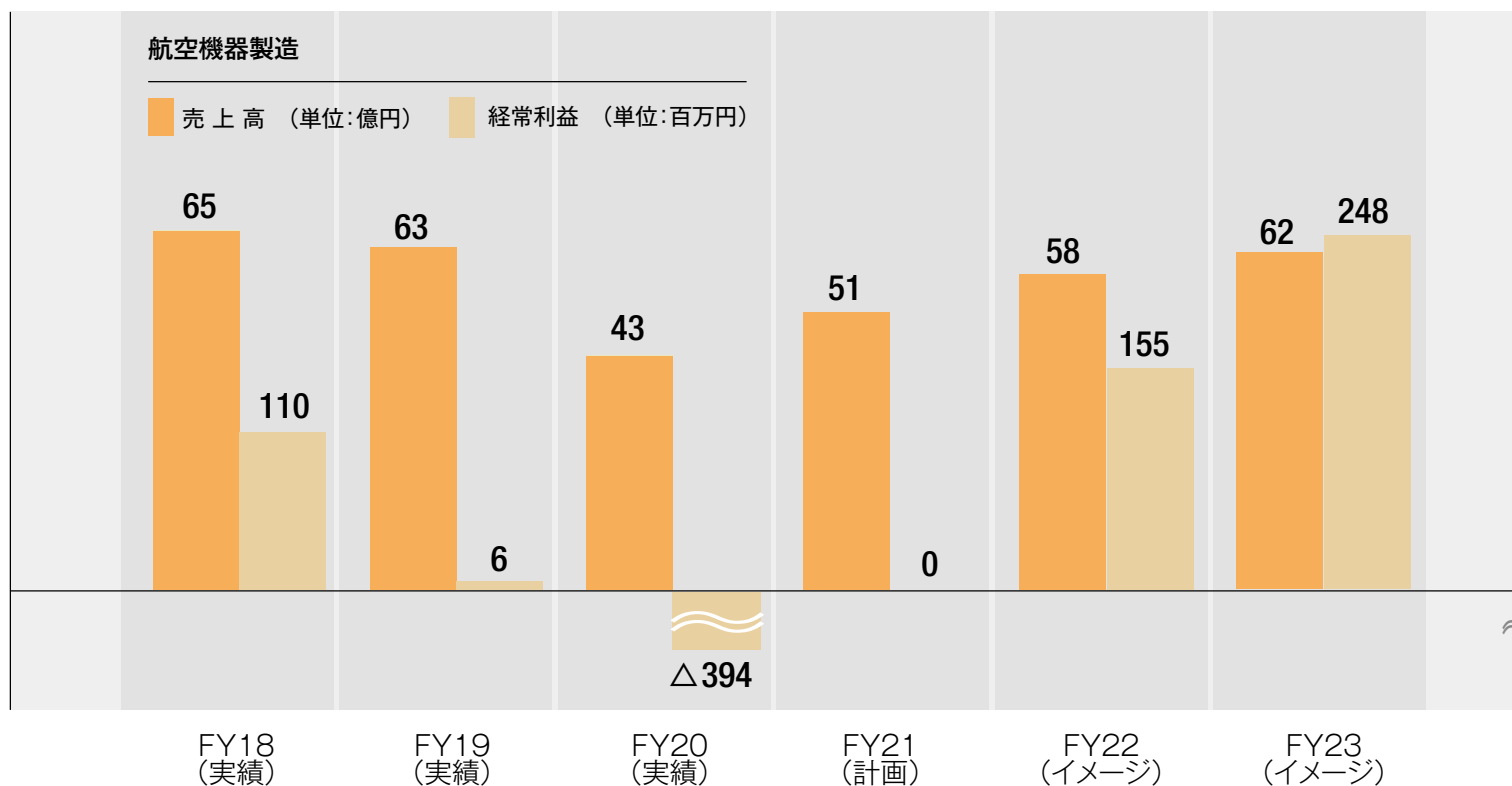
「Venture」の販売拡大による経常利益の黒字化

- 特注シートの赤字工事案件は、2020年度でほぼ出荷完了。
- 2021年度以降は、安定的な収益が見込まれるビジネスクラス・シート「Venture」が主力へ。
2022年度に経常利益黒字化。
- 中期的なポテンシャルとして、「Venture」の他機種展開及び次期ビジネスクラス・シートの市場投入による受注拡大を目指す。



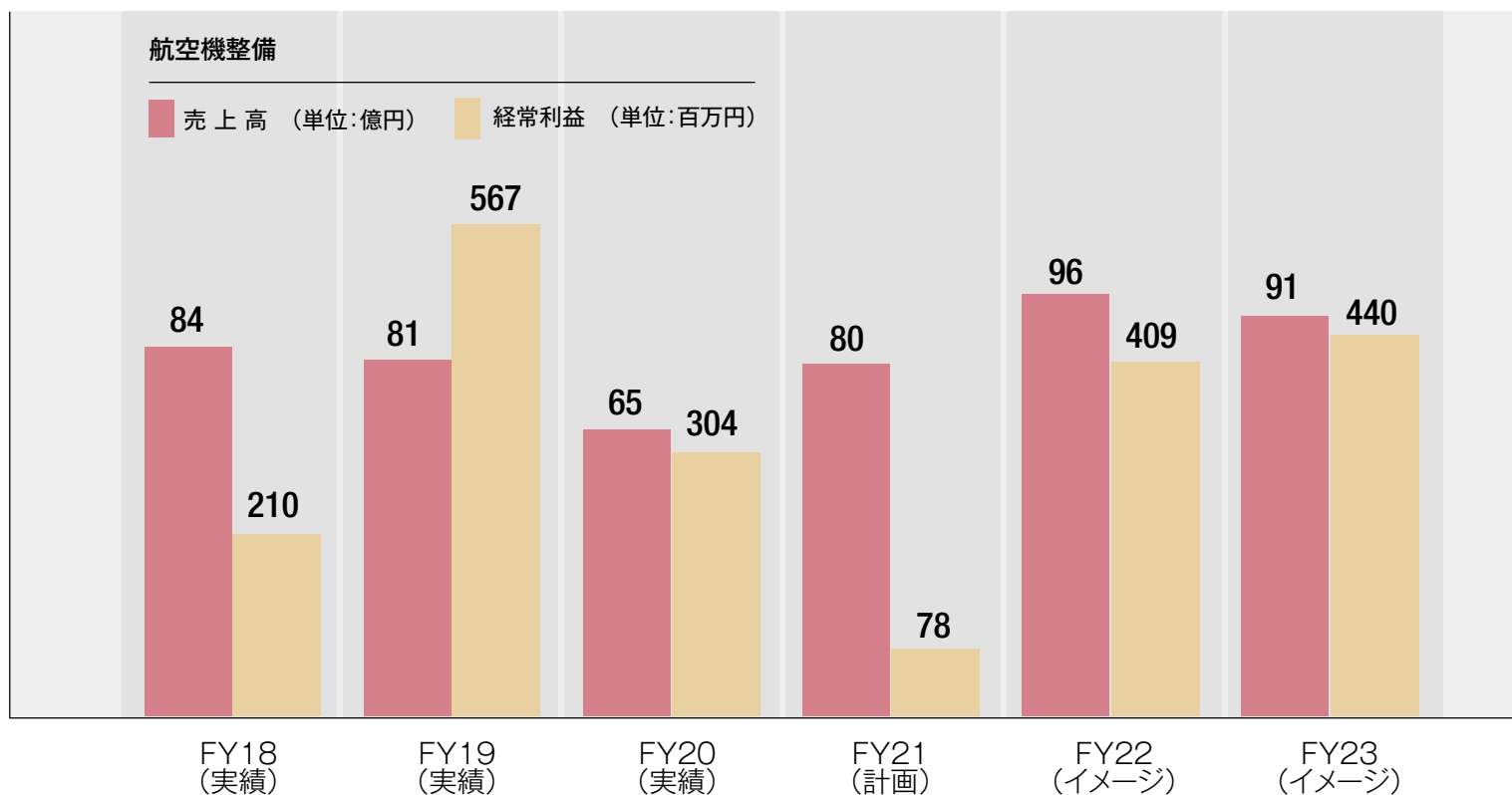
選択と集中による安定的収益構造の確立

- 2020年度は、売上減少により経常損失。
- 2022年度以降、エアバスの機体生産レート逡増に伴う構造部材の売上増加やエンジン部品の売上増加を見込む。



官需・民需のバランスによる安定的な事業構造

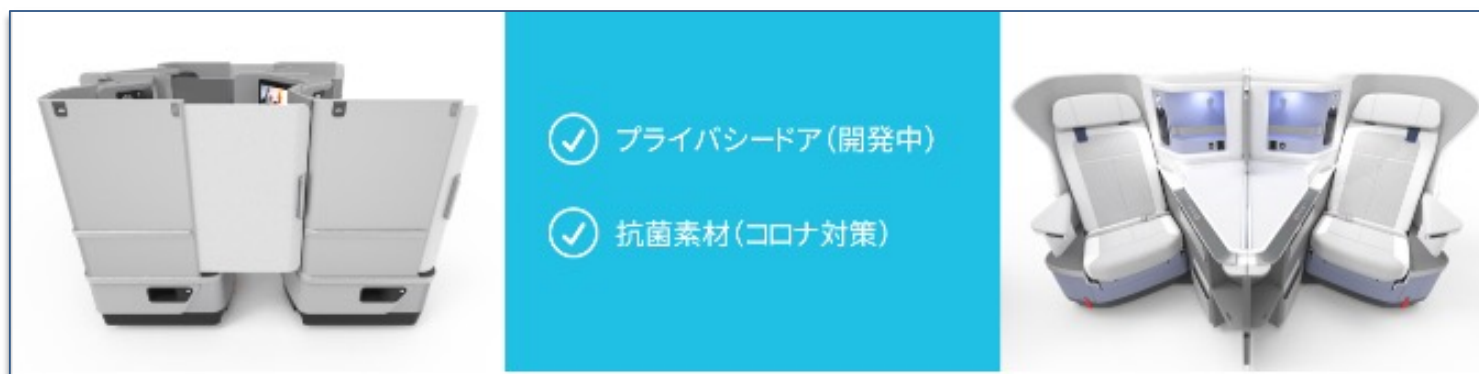
- 新型コロナ禍の影響が残り、2021年度は前年比減益。
- 2022年度以降、エアライン向けビジネスの復調などにより増益。



ビジネスクラス・シートの開発

ビジネスクラス・シート「Venture」

- 既存の787向けシートに加え、777/A350向けなど他機種向け製品も開発。
- プライバシードアの開発、抗菌素材(コロナ対策)などによる付加価値向上。



次期ビジネスクラス・シート 「Quest for Elegance」の開発

- 中・大型機向けに開発。



Project Blue Sky

コロナ禍の対応として、新たに開発・提案した製品やサービス

- ANAと共同開発した、ハンズフリードアハンドル／ロックを同社787/777向けに納入。
- シンガポール航空から777客室の貨物用改修工事を受注。改修完了。
- その他機内衛生環境向上につながる製品を含め、機体メーカーやエアライン各社へ提案中。



軽量カーボンハニカムパネル開発

航空機内装品の軽量化→航空機の燃費向上→CO2排出量の削減 (ESG/SDGsへの貢献)

- 強度試験終了し、十分な強度を有することを確認。
- 更なる軽量化とコスト低減を行ったのち、製品化を目指す。
- 777の内装品に使用した場合、1機あたり約360kgの重量減=年間約55kℓの燃費削減(約135tのCO2削減)が期待される。(当社推定値)



その他技術開発プロジェクト

- 軽量複合材構造研究:NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)プロジェクト
 - ・ラティス構造基礎研究→革新的な軽量化を実現する複合材構造様式の基礎研究
 - ・マルチマテリアル基礎研究→金属と複合材の融合により強度を保ち軽量化を目指す基礎研究
 - ・熱可塑CFRP成形技術開発→高効率成形及び、溶着等高度な一体成形を実現する技術開発
- ADP(Advanced Pultrusion)製法CFRPの建材への適用研究
 - ・鉄からCFRP軽量梁への置き換えにより、運搬や施工時の労力と工期の削減、遮音性向上
- CONTRAIL 大気観測プロジェクト
 - ・気象庁気象研究所、(国研)国立環境研究所、(公財)JAL財団、JALとの共同による国際線定期旅客機を利用した温室効果ガスの観測プロジェクト

